



山村振興のキーポイント

大規模・広域な組合の地域密着型組織構成



【かが森林組合

から学ぶ】

合意形成

ワークショップ形式によって 組織のあり方を検討

合併によって広域・大規模になった当組合のあるべき姿を改めて組み立てるために、組合員及び関係者が集まり、地区座談会形式（ワークショップ形式）で繰り返し議論を重ねることで、管内組合員すべてに共通する理念が構築され、また、適切な管理に向け森林所有者と組合のコミュニケーションが図られている。

地域リーダー

地域に信頼のある人材を長に

各地域の中で現役をリタイアした責任感のある人材が林産組合長を担うことにより、地域からの信頼が得られている。また、林産組合長を対象とした研修会も定期的に開催するなど、森林組合の事業計画等を現場に浸透するための取組も進めている。

地域コミュニティ

地域コミュニティの育成が 認証取得に貢献

林産組合長を中心とした林産組合制度は、信頼関係や互助精神が生きている集落レベルを基盤に集団化の取りまとめを行っている。このような地域コミュニティを活かしてきたことが、FSCグループ認証の取得につながった。

流通の仕組み

CoC認証の普及による 木材流通・販売のグループ化

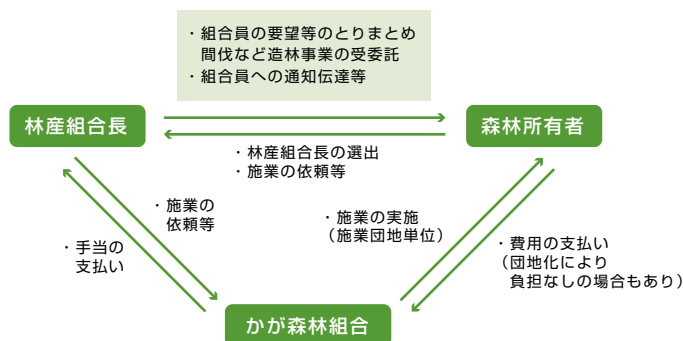
CoC認証のシステムを活用して、FSCの理念に共感してくれる取引先（工務店、建築家等）との関係を強化する。そうして、流通の川上から川下までつなぐ木材流通グループを形成していく。

かが森林組合の木材を使って家を建てるということが、取引先にとって、施主にアピールする材料となっている。



活用した組織と制度

林産組合長制度による大規模組合の運営



その人に聞く

森林所有者のため、木材利用者のために 適切な森林管理を目指す



かが森林組合 代表理事組合長 有川光造 氏

平成12年4月に、広域合併によりかが森林組合が誕生し、平成17年に新たな組合のビジョンづくりとして「森林管理計画書」を作成し、FSC認証を取得しました。さらに平成19年4月に白山森林組合も加わり、全国でも比較的大規模な森林組合となりました。

当組合の特徴としては、各町内の林産組合長が集団間伐のとりまとめを行っていること、集積加工場（那谷工場）を運営し、利用間伐された材が少しでも高く売れるよう努力をしていることがあげられます。また、各地区において組合員さん方と懇談する地区座談会も組合の恒例行事として毎年開催しており、今年も16会場で行われ、合計743名の方に参加していただきました。私はその全会場に出席し、多くの方のご意見を頂きました。

地区座談会であがった主な課題として「森林境界の明確化」があります。これは長年の懸案だったのですが、国の補助制度が創設されたことにより、今年から集団化して行う間伐事業の前段として、各所有者が立会い、杭打をし、測量データの一元管理を組合が行うこととなりました。今年は400haの利用間伐を予定していますが、境界を明確にすることにより集団化も進めやすくなります。

これからの組合は、組合員さんの山をとりまとめ集団化した施業計画をたてるコンサルタント業務を志向し、作業は競争原理を取り入れつつ事業体に発注するべきであると考えています。世界同時不況で大変な状況ではありますが、森林、林業には追い風が吹いています。この風を利用して管内の林業がより潤うことを目指しております。



今後の課題・展望

流通・販売のグループ化、環境整備、人材育成

目標1

木材流通・販売のグループ化

- 素材、製材品の安定供給と安定した需要の確保
- 流通・販売のグループ化の促進
- 板材の販路開拓
- 木材・木造建築に詳しい人材の育成と営業の強化

目標2

溪流バッファゾーンの整備

溪流沿いに皆伐禁止区域とその周辺の強間伐区域を設定し、施業や災害による水系への影響を緩和し、水辺の生態系の回復を図り、その回復度合いをモニタリングする。

目標3

森林環境教育の実施

地元の小中学校、高校などと連携しながら、子供たちに、森林のこと、木材・木造住宅のことを学んでもらう。森林に関する地域住民の理解を深めていくことは、長期的に非常に重要な意味を持つ。

目標4

プロ集団化に向けた人づくり

内部の職員の力を高めること、高い専門知識を持つ外部協力者との関係づくりは組織全体の力を高めていく上で重要であるため、若手職員を中心にいくつかの研究プロジェクトを立ち上げ、人材の強化を図っている。

関連・関係する団体

かが森林組合 那谷工場 〒923-0336 石川県小松市那谷町金1番地 Tel: 0761-65-7300